

研究会の視点

- ・子どもが、単元を通して実現していきたい「夢 (=活動の目的)」と、現在取り組んでいる学習活動のつながりを理解し、本時に臨むことができていたか。
- ・子どもが、一時間の授業に対して、「何のために、何をやる時間か」ということを自覚し、その解決・達成に向けて、主体的に学習活動に参加することができていたか。
- ・「つかむ (教師の見取りや子どもの自覚化) →ふかめる (子どもによる焦点化や教師の手立て)」が、無理なく文脈に沿って繋がっていたか。
- ・1時間の授業の時間的な見通しをもち、「ふりかえる」をしっかりと授業の中に位置づけることができたか。

4年1組 (遠藤級) 「仲間をふやせ! 「横浜メダカ」

【担任の意図】

「横浜メダカの会」の方から回答から、「田んぼ」のような環境にしていくことが望ましいと分かった。「田んぼに近づける」ということがどういうことなのかを話し合うことを通して、田んぼの要素の何を取り入れることがよいかを選んで、めざす水槽の環境にいて見通しをもつようにしたい。

【授業の様子】

田んぼについての知識や情報量に乏しく、課題を解決する判断基準がなかった。「田んぼに近づける」とは言っても、自分たちができることとできないことがあることに気付き、取り組めることが田んぼの要素の何であるかを選ぶことまではできた。



5年2組 (吉川級) 「あやとりで 戸部の輪を つなごう」

【担任の意図】

戸部コミまつりでの交流をふり返り、自分たちの課題が「仲良くなる」ことだと気付き、特に「会話」に課題があることを捉える。そこから、あやとりの技だけではなく会話の進め方や内容について次の交流にむけたヒントを一人ひとりもてるようにしたい。

【授業の様子】

戸部コミまつりをふり返ったり、アンケートを分析した話し合いをPMIにまとめた板書を見て自分たちの課題を捉えることができた。さらに、アンケートにいただいた言葉の中からあやとりを通してどんな会話を楽しんだらよいかを考えることができていた。



6年1組 (遠山級) 「戸部とつなぐれ フォトラリー」

【担任の意図】

保護者の方々や先生方からいただいた写真についてのアンケート結果をもとに、「自分たちにしか語れない場所はどこか」という子どもの発言を取り上げ、これからフォトラリーで伝えたい場所を決める。

【授業の様子】

上記の発言を取り上げて、全体に返すことで子どもたちの写真に対する見方が深まった。これまでの総合でかかわった場所や戸部のまちならではのことに目を向けて写真を選びなおし、その場所について選んだ理由を語る子どもの姿が見られた。



講師の先生から

- ・抽象的な学習課題はなく、誰もが具体的に話せる課題を設定する。そうすることで本気の学習課題が生まれる。(総合)
- ・指導案の「『学習材』とテーマ」の「テーマ」に教師の姿勢が表れる。(総合)
- ・各教科等の資質・能力を育て、活用することで授業が豊かになる。そのためにも各教科でも板書、発問計画を立てて授業に臨む姿勢をもつ。(総合)